

石川県におけるゼフィラスの食樹の記録-その2

野中 勝

これまでの記録を翔№20にまとめたが、その後下記の二種が判明したので追加する。

(1) ヲウキンシジミの食樹：ヤマトオダモ (*Fraxinus longicuspis*)

翔№20で *Fraxinus* sp. としたものの。昨春は花期に注意していたにもかかわらず花が認められなかったが、今年は俵でも、土清水でも花をつけており上記の如く同定した。今年はその地のマルバオダモも花をつけているものが多いが、この仲間隔年に花をつけるのであろうか？ それとも今年的气候が開花を促す何かの要素を持っているのだろうか？

(2) メスアカミドリシジミの食樹：キンヤマザクラ (*Prunus incisa kinkiensis*)

昨秋、医王山の重山道路分岐のやや上方のサクラより、メスアカミドリシジミの卵を得たが、花期に同一樹を検してキンヤマザクラと判明した。医王権現方面のものも同一樹種と思われる。又、重山道路では明らかに人為的に植栽されたと思われる池の周りのサクラから卵が得られたが、未だ同定できていない。

ダイツリオウギはハクサンシジミの食草か

松井 正人

1980年8月15日、石川郡尾口村中ノ川河原に於いてイワオウギとダイツリオウギの混生地を発見した。ダイツリオウギもイワオウギもほぼ同量で他の草と交ざって入り乱れて生えていた。ダイツ



リオウギ、イワオウギ共に何者かの食痕があり、花の咲いているもの、葉の成っているもの様々であった。

当日は天気が良く、たくさんのハクサンシジミを現地に見ることができた。ハクサンシジミがイワオウギを食べることは知られているが、はたしてタイツリオウギは食草となっているのだろうか。

\*1 1980-6-15 尾口村中ノ川にてイワオウギよりハクサンシジミ幼虫を確認する。(松井正人)

ハクサンシジミ雌はドクウツギがお好き

松井 正人

1980年8月15日石川県尾口村中ノ川河原にてドクウツギの葉に静止しているハクサンシジミ1♀を確認した。

葉に口吻を伸ばしていたかどうかは不明である。その他、ドクウツギをゆすると1株より1~2♀、数株より数♀が飛び出すのを確認した。これらも葉に誘引されていたものと思われる。

モンキチョウはイワオウギを食べるか

松井 正人

1980年8月15日、石川県尾口村中ノ川に於いてイワオウギで前蛹になっているモンキチョウ1匹を確認した。このイワオウギの葉は何者かによって食べられた跡があった。はたしてモンキチョウがイワオウギを食べていたのだろうか。

なお、付近には3匹1♀のモンキチョウが翔んでいた。

白山に於けるアサギマダラの最盛期について

吉村 久貴

アサギマダラは、県内では数回にわたって発生する多化性の蝶として知られている。主に秋口に発生個体数が著しく多くなるというのも、どんな本にも出ている。1980年、数回におよび白山釈迦道へ行く機会がありアサギマダラを採集したので、過去のデータとあわせてみた。

1978-VII-27

嵯峨井氏より、8月下旬がよいうう話を聞いて、HONDA CB 50でアタック。ブナ帯(地図A地点)で、25匹 B地点で25匹を採集

すなおに喜んで帰る。他、キバリタテムなど。

1979-VIII-29

去年に味をしめて、岡野敬子嬢と採集に行く。バナ草(A地点)で弁当を食べるが、全然あらわれない。帰り道B地点で2合採集。その他、キバリタテム、ホシミスジなど採集。



1980-VIII-2

自分の経験よりアサギマダラには、時期が早いだろうから、ヒメオオクワガタでもとCB 250Tでアタック。しかし帰ると、B地点の残黒い色の花(ヒヨドリバナ)で、アサギマダラが何頭も吸蜜している。11合採集。その他、ヒメキマダラヒカゲ多数自撃。ヒメオオクワガタ数頭採集。

1980-VIII-6

1979年アタックしたが雨にたたりれた吉岡氏と、竹沢氏と、3人でアタック。菜の花、多数のアサギマダラが道脇脇の例の花(ヒヨドリバナ)で吸蜜中であつた。

吉岡氏、2合4合、吉村竹沢氏29合5合採集。その他、ヒメオオクワガタ、アカアソクワガタなど採集。

1980-VIII-10

そんな時にアサギマダラがいるのかという筆者の弟と、岡野嬢



の3人でアタック。やっぱり数え切れないアサギマダラがいる。

4155 10 9 採  
川瀬、高羽、武藤、徳本の諸先輩と出会う。

1980-VII-25

キバリタテハを求めて単独アタック。レカレキバリに当たらず  
アサギマダラ 255

というデータを総合してみると、アサギマダラは秋といっても8  
月に入った頃から、お盆ごろまでに膨大な量が発生しているのでは  
ないか。いつも8月下旬に行くと、数頭しか見られないのもうなず  
ける。なお、詳しい調査をお願いしたい。

アサギマダラを探りたい人は8月上旬～中旬ぐらいがいいと思います。

### 白山蛇谷でスギタニルリシジミを採集

野中 勝

1981年6月7日、蛇谷の標高100m付近でスギタニルリシジミ  
1♀を採集した。中宮温泉付近はトキノキが多く、本種の分布は  
予想されていたが、記録はないようなので報告しておく。尚、当日  
は中宮温泉付近に状態の良い花をつけたミズキが何本もあり、カエ  
テノハリグロハナ、テツイロハナ、ミヤマルリハナ、ゴジマヒゲナ  
がコバネ、タカオメダカ、マツシダトラ、カンボウトラ、キンケト  
ラ等のガミキリも採られた。

### 大夕和産ギフチョウ飼育記録

松井 正人

1980年に、富山県大夕和峠産(標高約1300m)のギフチョウを、  
6月中旬～7月中旬にかけて飼育して、以外に早い成長記録(幼虫  
期平均23.4日\*)を得たので、今回は金沢産との同時飼育を行ない、  
次の結果を得た。なお、飼育には、自宅の室内で金沢産のヒメカン  
アオイを用いて行った。

表-1・成長記

表-2・成長日数

この結果からは、1980年の大夕和峠産ギフチョウの成長が早かっ



たのは、6月中旬～7月中旬という時期はずれの高温時に飼育したのが原因だと思われる。

表-1. 成長期

日数	金沢産		大和多産	
	ア群	イ群	ア群	イ群
0	11印	14印	13印	3印
1	2A9印(5印)	14A(5印)	11A2印(3印)	3A(5印)
2	11A		13A	
3				
4				
5				
6	10A1B	14B	2A11B	
7	11B		13B	3B
8				
9		3B11C		
10	11C	14C	1B12C	3C
11			13C	
12			13C	
13			12C1D	
14	3C8D		1C12D	3D
15	11D		13D	
16				
17				
18				
19				
20		14E	12D1E	
21	11E		1D12E	3E
22			13E	
23				
24				
25				
26				
27				
28			11E2F	
29			9E4F	
30	7E4F	3E11F	1E12F	1E2F
31	11F	14F	12F1G	3F
32	9F2G	7F7G	8F5G	3F
33	11G	14G	2F11G	1F2G
34			12G	3G

また、この時得られた蛹を使って重量比較を行なった結果は次のとおりであった。

表-3. 蛹重量

大和多産が金沢産に比べて約0.1g軽いのはなぜであろうか、考えるに、

1. 大和多産は小型である。
2. 食草は金沢産を用いた。
3. 大和多産は飼育2代目、金沢産は初代である。

これらのからみもあつたものと思われる。

表-2. 成長日数

令級	金沢産		大和多産	
	最短	平均	最短	平均
初	5	5.0	5	5.2
2	3	3.2	3	3.8
3	4	4.6	3	3.9
4	6	6.3	7	7.0
終	9	10.0	7	8.8
前蛹	2	2.2	2	3.1
幼虫期	31	31.3	30	31.7

( )内は試料個体数

表-3. 虫卵重量 -1981.6.8計測-

重さ (gr)	全産出数	大産出数
0.32		1
34		2
36		2
38		2
40	1	5
42	3	1
44	3	1
46	2	
48	4	
50	7	
52	3	
54	1	
56		
0.58	1	
平均	0.50gr	0.39gr

医王山のメスアカミドリ

松田 俊郎

医王山のメスアカミドリについては、翔にも何回か報告されているが、1981年8月23日、筆者も医王山にてメスアカミドリを採取したので報告する。

採卵したのは、重山道路沿いの樹からで、午後から行って、嵯峨井氏と二人で計12卵を得た。

冬の豪雪のためか、樹の木はかなり折れていたが、その折れていた枝でも葉をつけているものからは採卵できた。

採卵のポイントとしては、空間によく張り出した下枝がよいようで小指ぐらいの太さが、それより細い枝で卵を見つけることができた。

田舎は産卵にあたっては、やはり好みの木があるようで、12卵のうち、1卵は1本の木から得られた。

なお、当日はこの他にミズナラから Favonius 6卵 (多分ジョウザンミドリ) を得た。



## 《蝶談会例会の記録》

1981.4.23(木) 豪雪などによりしばらく休会していた例会も、市内川上野の崎浦公民館にて開催。出席者・松井井沢・吉村寛・金平・野中・竹后・若下・井村・松田・嵯峨井の11氏。

朝日20号の配布。テーマは、アサマジミ特集発行計画について、北陸のアサマジミについて、80年迄の調査結果を担当別に報告する、第1... 写真を取るか、否か?

1981.4.30(木) 崎浦公民館にて、松井・野中・吉村・松田・嵯峨井の5名出席。

アサマジミ今後の調査地について、片貝川・常盤川・白山牛首木系など、福井県では? 白山集川の白川村では? 岐阜県の西田慎也氏あたりが、かなり調査しているという話(?)

1981.7.3(金) 7月例会を崎浦公民館にて開催。出席者は、野中・松井・松田・井沢・吉村・嵯峨井として野中氏の招請により金沢大学医学部勤務の金子ニ久氏の出席があった。

話題は、各地のアサマジミ調査情報、今年のウズバシロウツについて、他誌にタラッと載っていた川前・輪島のウズバシロウツについて他.....

## 《たまたまいた会員の動向・しやばの動き》

編集者のグータラ振りに、ずいぶんたまたまいた。10頁まで一気に書きつづります。

◆ 2月1日(日)、諸道・松田の探採コンビは、雪が降りし高原へ。アサマジミ

り10卵、アサマジミ1卵、ミズバネが1卵も得た。

◆ 2月8日(日)、野中・松井・諸道の木登り3人組は、福井県大沢野や婦中へアサマジミの調査をしたが、キリマなどにはお目にかかれなかった。

◆ ちよと白付がもどるか、12月14日(土)、鳥越高原大日スキー場にて、スキー場閉きでリフト・駐車料無料。松井氏従業員に間違えられる。(諸道氏の方が従業員リック存の) MRD-TVが撮りにくる。誰かいい「従業員も初まじりて喜んでおります。」

◆ 3月00日、吉村・松井の新探採コンビは、諸道氏の転居手伝いを兼ねて、新泻市へ探採に行った。030ア05000卵(三新だぞ)得たらしい。

◆ 3月△△日、諸道秀人氏は、6年間の金沢生活に終止符を打ち、めでたく、金沢工大、土木工学部卒業された。卒論のテーマは..... 知らない。就職先は新泻市のKK新栄技術である。

◆ 同じく、八木橋英蔵氏も4年間の大学生活に終止符を打ち、めでたく金沢工大電気工学科を卒業された。何でも郷里の青森氏へ帰ったという話もあるが、東京で就職先というウソもある。目下のところ、行方知れず。

◆ 4月3日(金) 松井氏、テレビに出場。ローカルニュースで「新探採員、ゴミ収集研修」との題で、～お偉方のあいつのとき、前に一列に並んでいる新探採員の中程に、松井氏を発見!! テレビを見ていたものが「これだ!!」と叫んでいた。次に、実際の場面が写ったが、松井氏は出てこなかった。..... て探採で松井正人氏は、国土開発K.Kを丹波退社し金沢市役所へ就職した。月給00000円也。



- ◆ 4月11日(土)、バンコレは行かずに損をするおな気かして、窪・平栗おたりにギフチョウを見に行か。おたりに残雪を見今年の特徴のすさを物語っている。
- 同日、松井氏は、果外勢からのがれて森本〜矢部方面へのひのびとした気分でギフを調べてきた。
- ◆ 4月12日(日)、野中(新車)・金平(バイク)・嵯峨井は各々、別行動で、平栗周辺を走りまわった。➔

- ◆ 同日午後、嵯峨井は辰ノ口町へ、そこでバツリ松田氏と出逢い、ギフチョウはゴナンの日なり。
- ◆ 4月14日(火)、午後、バンコレは、休暇がとれたので、再び辰ノ口〜小松の山間部を踏査し、ギフ・マップをつづけた。
- ◆ 4月18日(土)、平栗にて、東京から採集者、名産屋の家族すれ... 等々... あり、↙

北国新聞  
情けない、根こそぎ採取

それは野生を絶滅する原因です 1981.4.30

◆ 去る四月十九日に行つた石川県自然保護協会の行事「カタクリ観察会」(自然教室)は百五十人も参加で楽しく盛大でした。二、三の方で現地の方の許可を得て採集された方もあったと聞きますが、原則として、わたくしたちの会は学術研究目的以外には採らないこととしております。数日後、もう一度見に行つた方がありましたが、現地では花がすっかり取り去られてがっかりしたという話を聞きました。段ボールとシャベルを持った人に出会った由、たぶん先日の観察会で場所を覚えた人だろうということになりました。一般参加も多かったので会の参加名簿にもれた方も多く、今さらにも乱獲者を探すわけにもいきりませんが、情けないことです。

◆ もう三十年も昔になりましたが、むしの会がギフチョウの観察に行ったことがありません。ギフチョウの食草はカン

アオイの仲間です。会のあつた数日後、これもある親子連れが一年に一芽しか伸びないという学術上貴重なこの植物を根こそぎ採集にきていたという話を聞きました。もっとほかの植物についてもこんな話が絶えません。業者が行う根こそぎ作戦でもごんなにか野生が絶滅に追い込まれています。日本の国は二万年前までの水河時代を幸うじて生き抜いた世界にもまれな植物が多いのですが、高山に残り(高山植物)または春には明るい落葉樹の下で咲かせる根茎地下植物(地下茎で越冬する草)となつてわたくしたちに美しい花をみせます。北陸はここに、そのような草花が多いのですが、カタクリもその一つです。環境開発には最も強く、ブルドーザーにあつられると、すぐ外国からきた帰化植物にとつてかわられます。このような日本の自然はどのまきまきつと子孫に伝え

- ◆ 4月19日(日)、松田・嵯峨井の新コンビは、湯涌へ。アニアオタモなどを発見した。湯涌付近は残雪多く、ギフなどは、おたりのよう。帰途、平栗へ。
- おたりにた事にギフチョウの好POINTは、100~150人ぐらゐの団体さんでギフシ、山草を見る会(?)のご先人達(矢部若いのむいた)が手に手にカタクリの花(球根付き)を手にしていた???
- 団体さんが去つたあとのギフチョウポイントは見るとムザン。... 数日後の北国新聞コラムに載つた記事は上のものです。現象も知らない会長がお気の毒。
- ◆ 松井仕事人は、果外ものに目を向けない事で有名だが、久々にギフ採りに糸魚川

- へ出向いた。4月18日のことである。
- ◆ 4月22日(木)、北国新聞に「華麗な春の舞姫」と題して、竹田松二氏撮影のギフチョウの写真が掲載された。「果外ナンバーの車が止まり」は良いとして、「アニアがギフチョウを採集する姿が自撮つた」というくだりは、いささが自分のことをいわれているようで、気に入る。(新聞記事は9頁に載せた)
- ◆ 4月26日(日)、松井仕事人・嵯峨井バンコレ・松田愛事人は各々、別行動で、石川県内のギフチョウを調査した。

たいのです。カタクリを大量に採つた方はわたくしたちの仲間ではないと思いますが、美しい自然を守るために力になつて下さい。(石川県自然保護協会会長・木村久吉)



# 加賀の山地に遅い春

## 全国有数の生息地 乱獲心配—とマニア

# 華麗な

## ギフチョウ

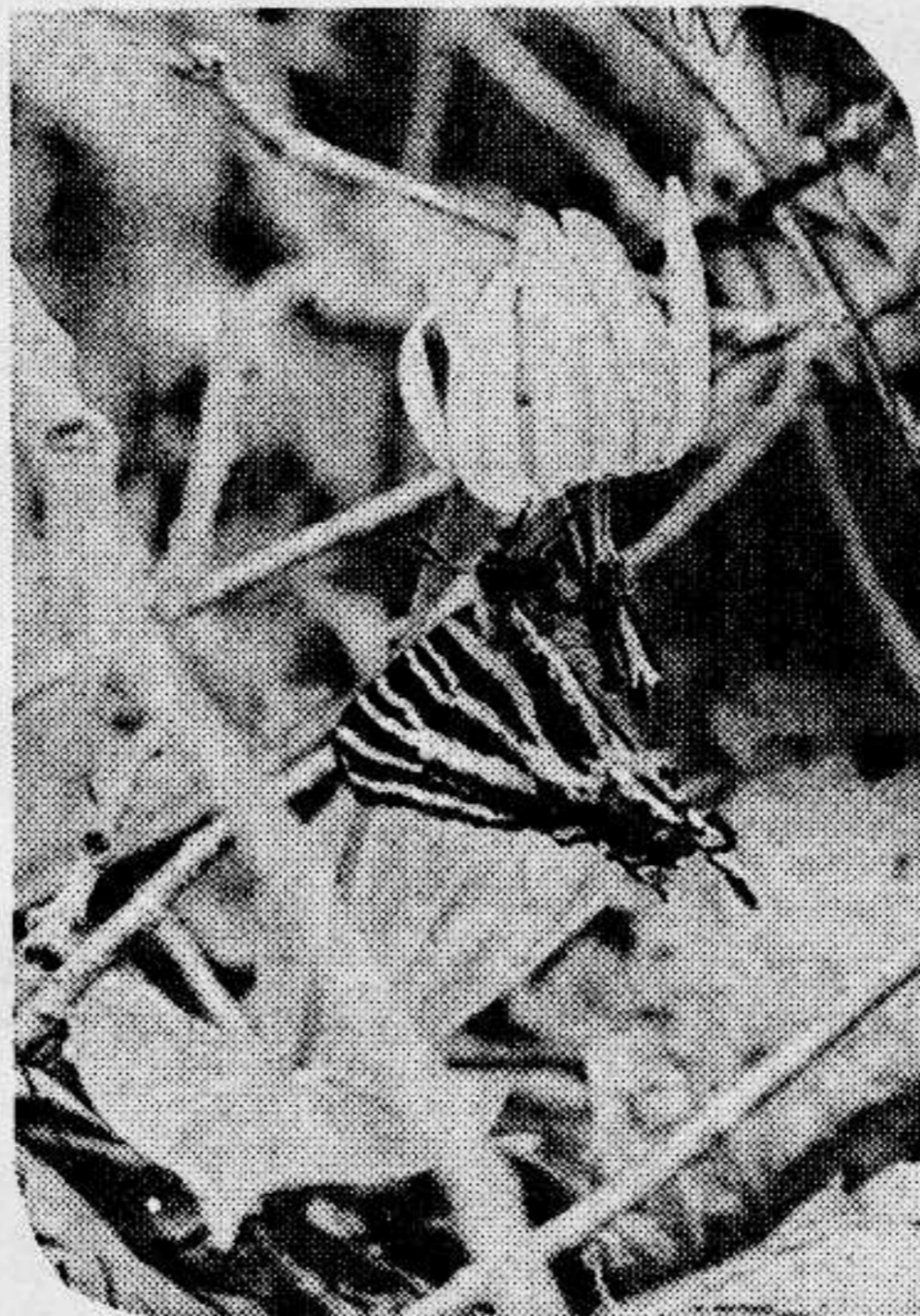
# 「春の舞姫」

金沢から加賀の山地帯までギフチョウが飛び交い、白山ろくに春到来を告げている。このギフチョウは世界でも日本の本州にしか生息せず、一年のうち四月しか姿を見えないように羽化のあと、十日間足らずで寿命が尽きる珍種。また、黒と黄色のまだら模様は赤とオレンジ色の斑点がある羽は華麗を極め、「春の舞姫」の別称を持つ。度雪が多いことは、例年のように一斉に羽化せず、少しずつ飛んでいるのが特徴で、マニアたちは「いつも四月中旬に迎える羽化のピークが、ことしは五日ほど遅れた。それだけ貴重なギフチョウ

の飛ぶ期間が短びたわけだから、五月でも観察できず」と驚んでいる。  
石川県内のギフチョウは金沢市野田山の奥に当たる平栗町や、内川の奥地の小原、住吉、新保、さらには書ヶ岳や小松、山中町にかけて広く分布する。この低山地帯の雪解けが始まる四月上旬、カタクリやスミレの開花と同時にサナギから羽化したあと、ふつう一週間余りしか飛び回らず、この間、常緑植物カンアオイの葉だけを食んで卵十数個を産み、命が尽きる。同じカンアオイでも能登地方に植生するものはきつい、県内では加賀地方だけに生き残り珍らしいギフチョウ

今月中旬、ギフチョウの姿をカメラに収めた。金沢市平栗町の雑木林で紫色のカタクリの花から、みつを吸っていた。一帯の山は、低山といっても、谷間は雪が二〇センチ前後残っていた。その下に、ギフチョウのサナギがまた相当数いると竹谷宏二さんは話しており、白山界外サンパールの車が止まりマニアがギフチョウを採集する姿が目立っている。

マニアの一人、ギフチョウの生息写真を撮り続けている農産試験場員竹谷宏二さん。県外サンパールの車が止まりマニアがギフチョウを採集する姿が目立っている。



好物のカタクリの花からみつを吸うギフチョウ  
—金沢市平栗町で竹谷宏二さん写す

- ◆4月29日(金)、松井氏は桑島町の奥へ、ギフチョウ調査。野中氏は匠山へサクソ類の同定研究に、松田氏は家庭サービス・嵯峨井も家庭サービスで、押木町へ。
- ◆5月4日(月)、バンコは、ウラキン採幼のため湯涌・堅見へ。同日松田氏も湯涌へ。バンコは別の場所でもウラキン10頭前後採幼したとのこと。
- ◆5月9日(土)、バンコは、森本〜津幡にかけてオオヒカゲの調査をした。新産地も14軒発見。同日国道304号沿の相山にてトネリコsp. 8種(種名不明)、ウラキンを2頭採幼した。
- ◆5月10日(日)、バンコは、山沖、負砂、片原、千束滝、梶氏の林帯をうろついてきた。
- ◆5月16日(土)、松井、嵯峨井オオヒカゲゴゼは、邑知津南部を調査し、オオヒカゲの新産地も数箇所確認した。詳細はオオヒカゲ調査報告PART2に掲載予定。



《ニューフェイス紹介》

1. 井原国雄氏

金沢市新聖街3丁目114(持家)

TEL・32-2298

資料で過去に氏の「持家」を紹介済みである。今春オリエントを再開し、あちこの山にシエツボツしている。何でも今秋オトリ東南アジア方面へ採集旅行に出かける予定とか。... 旅行プランをおねだりした方には、採集品の1/3を提供するとか。... 長年採集POINTを知っている方は、氏へ話してみるが良い

年齢30歳、妻有るあり、借金あり、ホトかな?

2. 金子ニ次氏

金沢市涌波2-7-10

TEL・64-4167

白いフェイスワングンであちこち採集に出かけるエカチなお父さんという感じ。最近はやすべに熱中しているとかで、8年初夏は、足げく能登へ通水という。

早月木系におけるアサギジミは、氏の調査行にお出するものがない。TSU-1-50 吸着者。東京出身。年齢ウツウ、妻、子あり詳細な話を筆者は聞いていないのでわかり。何でも東京に住んでいる、茅さんも、虫葉やさんとか?

〈編集人のたわ言〉

資料2号の発行が大幅に遅れてしまいました。理由はいっぱいあるのですが、こちらはなし。

目次

石川県におけるゼフィルスの食樹の記録-その2-	野中 勝	1
タイツリオウギはハクサンシジミの食草か	松井 正人	1
ハクサンシジミ雌はドクウツギがお好き	松井 正人	2
モンキチョウはイロオウギを食べるか	松井 正人	2
白山に於けるアサギマダラの最盛期について	吉村 久貴	2
白山蛇谷にてスギタニルシジミを採集	野中 勝	4
大多和産ギフチョウ飼育記録	松井 正人	4
医王山のメスマカミドリ	松田 俊郎	6
虫蝶談会例会の記録		7
会員の動き・しゃべの動き		7
ニューフェイス紹介		10

期

NO 21

1981年 10月 1日(木)

発行：金沢市三日新街4-9-34 松井正人方  
百万石虫蝶談会

編集・校正：嵯峨井 淳郎